

ハリス理化学館同志社ギャラリー第39回企画展
同志社大学京田辺キャンパス開校40周年記念

2026

9.1 |火| - 11.1 |日|

10:00 - 17:00

[最終入館は 16:30 まで]

月・祝日休み 入場無料

ハリス理化学館同志社ギャラリー
2階 企画展示室 (同志社大学今出川キャンパス)

主催：同志社大学同志社社史資料センター 協力：同志社大学歴史資料館

同志社の 教育 改革

— 京田辺校地の現在地 —



竣工当時の京田辺校地 1986年

同志社の教育改革

—京田辺校地の現在地—

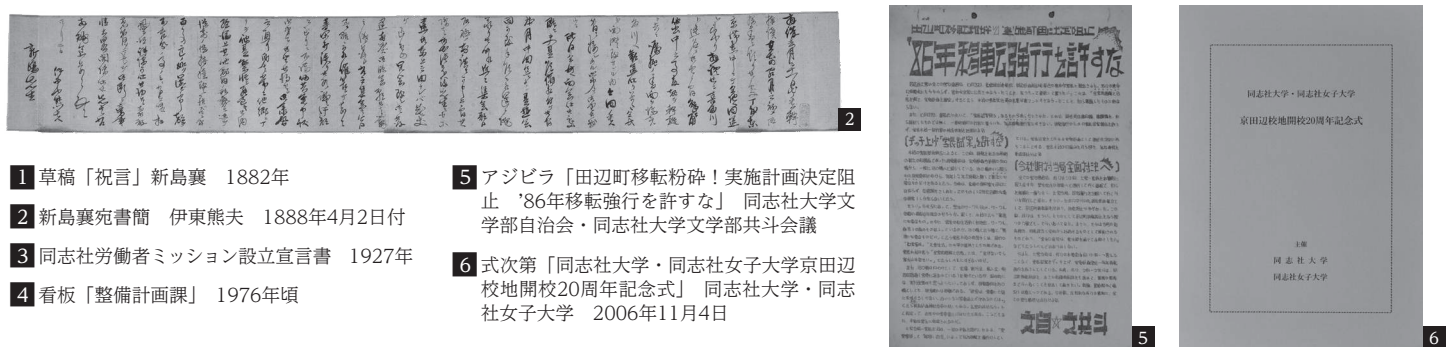
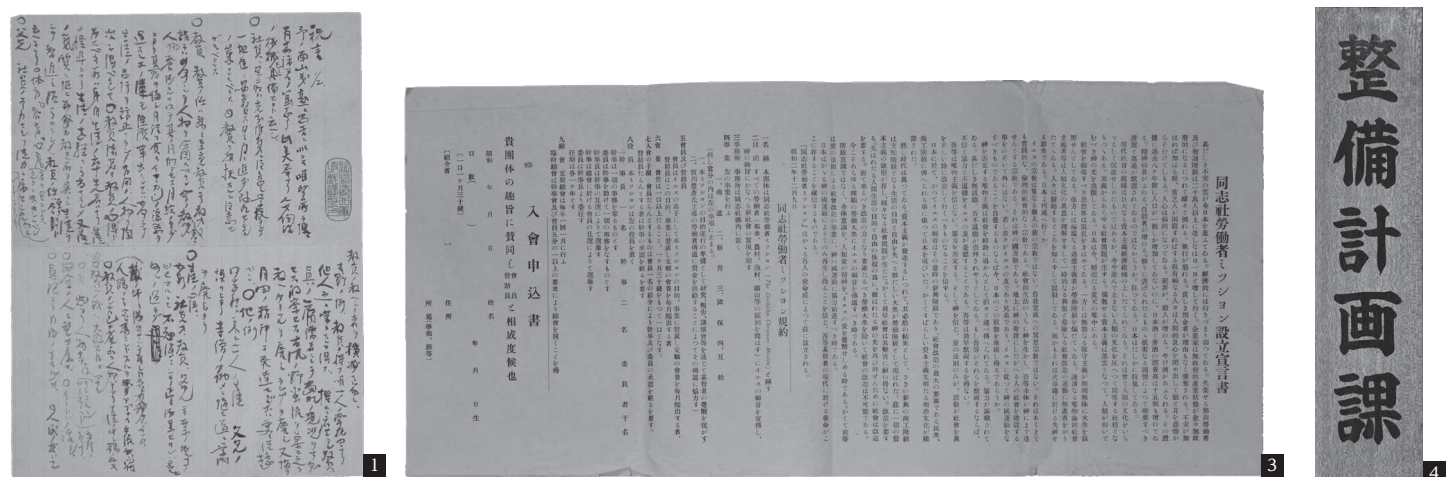
2026年4月、同志社大学京田辺キャンパスは開校から40年を迎えました。これを記念し、同志社と京田辺*の関係を資料で振り返る企画展を開催いたします。

同志社と京田辺の歴史的な接点は南山義塾という学校が端緒です。1882年4月30日に同志社の創立者新島襄がこの学校の開校式に参列し、祝辞を述べました。新島は、この学校を通じて、新島とはほぼ同年代の京田辺の人々に出会います。彼らは、開校したばかりの同志社の活動に理解を示し、新島が医学校を設立しようとした時、大学設立のために募金運動を展開した時に、金銭も含めて支援を続けました。京田辺は新島が挑んだ教育改革に賛同と援助を惜しみなく提供した人々のゆかりの土地です。

新島永眠後、およそ100年の月日を経て、1986年京田辺に同志社大学の新しい校地が開校しました。その背景には、既存の校地の狭隘化解消、法令対応など、同志社の経営陣が並べるといくつかの理由がありました。他方で、同志社で働く教職員、受け入れ側の京田辺の市民、そして、京田辺の自治体それぞれに立場や意見がありました。その意見が完全にまとまらずとも、京田辺校地で実施される様々な行事を通じて交流を深め、現在も同志社と京田辺は共に歩む未来を想像し、創造する歩みが続いています。

本展では、同志社と京田辺の関係性を物語る歴史資料を紹介します。近現代史を物語る資料のかたちにも注目します。

*1997年に綴喜郡田辺町は市制施行により京田辺市となったが、本展示会では一律して「京田辺」と表記する。同志社大学京田辺校地への改名は2000年。



1 草稿「祝言」新島襄 1882年

2 新島襄宛書簡 伊東熊夫 1888年4月2日付

3 同志社労働者ミッション設立宣言書 1927年

4 看板「整備計画課」 1976年頃

5 アジビラ「田辺町移転粉碎！実施計画決定阻止 '86年移転強行を許すな」同志社大学文学部自治会・同志社大学文学部共闘会議

6 式次第「同志社大学・同志社女子大学京田辺校地開校20周年記念式」同志社大学・同志社女子大学 2006年11月4日

ハリス理化学館同志社ギャラリー2階 企画展示室

(同志社大学今出川キャンパス)

京都市上京区今出川通烏丸東入 京都市営地下鉄今出川駅下車徒歩5分

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室

Tel. 075-251-2716

同志社ギャラリーホームページ <https://harris.doshisha.ac.jp/>

※合理的配慮が必要な方は、事前にご連絡ください。

ご要望内容を検討のうえできる限りの対応をさせていただきます。

お問い合わせ先

